

資料 2

今後の課題

1 これまで主な取り組み

○全般

連携会議の開催により、各団体の建設産業の担い手確保・育成事業の情報の共有が図られ、産・学・官の連携は強化された。

○高校生向け

建設系高校での建設産業説明会、意見交換会等を通じて、高校生に対する建設産業のやりがいや魅力発信を精力的に行うことができた。

○小学生向け

「じどう車くらべ」や「私の学校はここにあるプロジェクト」、インフラ親子見学会により、建設産業を身近に知ってもらう機会を提供し、建設産業のイメージアップを図った。

○若手技術者の離職防止や女性の活躍推進

若手技術者や女性技術者の声を取り入れ、建設産業の魅力ややりがいを伝える「やまなし技術者スピリッツ」等による情報発信を開始した。

2 課題

建設産業の担い手として最も期待される建設系学科等の高校生の確保という点では、建設系高校の定員割れの状況は変わっていないことから、中学生の入学希望者を増やし定員充足に向けた取り組みを強化する必要がある。

○これまでの中学生向けの取り組み

- ・パンフレット配布：2年生に配布（R3～）
- ・出前講座：測量設計業協会、造園建設業協会で開催（R3～）
- ・職業講話：建設業協会、測量設計業協会で開催（R4～）

上記の通り開催しているものの、小学生、高校生と比較し中学生への働きかけの機会が少ない。

3 今後の取り組みの方向性

これまで働きかける機会が少なかった中学生に対し、出前講座や職業講話、建設産業説明会を開催することで、建設産業を身近に感じ、働きやすくなっている建設産業を知ってもらう機会を数多く提供する。

公立中学校長会の各支部校長会で説明を行うなど積極的な募集活動を実施する。

建設課程で学ぶ生徒・学生数

■高校（建設課程）在校生徒数（R4.10月末現在）

人（）内は女子

	定員	計	1年	2年	3年
甲府工業（建築科）	40人	108(29)	35(8)	40(10)	33(11)
甲府工業（土木科）	40人	101(12)	36(0)	35(7)	30(5)
農林（環境土木科）	30人	87(3)	30(0)	29(2)	28(1)
農林（造園緑地課）	30人	84(46)	24(14)	30(19)	30(13)
青洲（工業科2科： 土木工学科）	60人	89(11)	30(6)	30(3)	29(2)
都留興譲館（工業科 4科：環境工学科）	96人	46(6)	13(1)	19(2)	14(3)
北杜（総合学科4系 列：環境工学系列）	94人	19(1)	2年次～	7(0)	12(1)
笛吹（総合学科4系 列：環境・緑地系	90人	30(0)	2年次～	15(0)	15(0)
富士北稜（総合学科 系列：建築デザイン 系列）	234人	54(20)	9(5)	15(1)	30(14)
計	—	618(128)	177(34)	220(44)	221(50)
甲府工業（定時制3 科：建築）	120人	15(2)	0	6(1)	5(0)
					4年：4(1)
甲府工業 高卒（専 攻科(夜間)：建築)	30人	27(11)	16(8)	11(3)	—